令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【原山中学校】

① 目　標・策

	目　標		策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」を活用し、国語・数学に関する基本的な事項の反復・習得を行う。また、これらの活動を通して、予習と復習を習慣化し、見通しをもって授業に取り組めるようにする。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・数学の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒	各教科やSTEAMS TIMEにおける生徒の探究的な活動を通して、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。また「Teams」やミライシードなどを活用して思考から表現までの過程を可視化し意見の共有や協働作業を行う。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を3pt向上させる。	⇒	手帳を効果的に活用して、先を見通して時間を有効に活用できるように指導を行う。また、単元や題材のゴールを適切に設定する等、見通しをもちながら自分の力で解決する場を設定する。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析

知識・技能	国語・数学・英語の3教科について、どの教科においても全国平均等に比べて、正答率が高く、無回答率が低い傾向にあった。また数学と英語は標準偏差から見る、正答数のばらつきが大きく、この2教科に比べて、国語はばらつきが低い傾向にあった。
思考・判断・表現	3教科すべてにおいて、「知識・技能」の項目と比較して、正答率が低く、また無回答率が高くなる傾向にあった。ただし、全国平均の数値を大きく上回っている。
主体的に学習に取り組む態度	アンケートから全国平均と比較して、塾も含めた家庭学習に取り組む時間が長い。また、家で計画的に学習しているかという点については、全国平均を上回ったものの、昨年度の本校の結果とは大きく変わらなかった。

③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

	目　標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	標準偏差から正答率にばらつきがあることが分かった。そのため、単元を見通した授業の中で、学習形態を工夫し、「さいたま市型『アクティブラーニング』型授業」を推進し、探究的な活動をより多く行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし

④ さいたま市学習状況調査結果・分析

今年度は参考値となります。

中1	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語＋0.8、数学－1.3だった。国語においては、それぞれの領域においてバランスよく数値が伸びており、今後も継続して積み重ねていく。「思考・判断・表現」については、国語、数学ともにR4年度と比較して、ほぼ横ばいとなったもの標準偏差の数値が高く、理解度にばらつきがある。そのため、基礎的な学力の定着とともに、学習形態を工夫したりするなど、学力の底上げを図っていく必要がある。
中2	「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査より国語＋0.3、数学－1.8だった。数学においては、基礎問題の正答率が下がっており、日ごろからの、基礎・基本の定着に関して課題が残った。「思考・判断・表現」については、国語＋0.7、数学＋0.9となり、ICT機器を活用したり、言語活動の定着を図ったことが結果につながったと考える。
中3	「自尊意識」で肯定的な回答が市平均を下回っている項目が多く、自分に自信がない生徒が多いことがうかがえる。ただし、各教科の成績はどの教科においても市平均を上回っており、自らに高いハードルを課した結果、それを達成できずに、自己肯定感が下がってしまう傾向にあることが考えられる。家庭とも連携を図り、目標を調整するなどして自己肯定感を高める指導に努めていきたい。

⑤ 目標・策の達成状況

		評価（※）
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「知識・技能」の平均正答率はR4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、国語＋0.3、数学－1.8だった。ICT機器等を活用した自己学習は定着してきているので、紙のドリルとの併用の効果を考え、今後も継続していく。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」の平均正答率はR4年度さいたま市学習状況調査の自校結果と比較して、数値は向上したものの、学校内の各教科における「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」は内容・頻度ともに、向上しつつあるものの改善の余地があると考えられるため、来年度に見直しを図っていく。	B
主体的に学習に取り組む態度	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」の項目は肯定的な回答が市平均と比較して、10pt以上低い数値になっている学年があるにも関わらず、「学校の授業時間以外に，普段(月曜日から金曜日)，1日あたりどれくらいの時間，勉強をしますか。」の項目では肯定的な回答が市平均を7pt以上上回っており、「主体的に学習に取り組む態度」について、課題があり、普段の授業から粘り強さだけでなく、調整力を高める指導の工夫を図る必要がある。	B

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と改善策

知識・技能	全体的に基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。また、知識・技能の定着のための手段として、ICT機器を効果的に活用するなど、その手段も増え、この実態に応じた実践をすることができた。基礎学力の定着を目指すため、単元計画の工夫や各単元の目標の明確化を図っていく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査の標準偏差の数値の高さなどから「思考・判断・表現」の力にばらつきがみられることが考えられる。この力の底上げを図っていくために、1年次より3年間を見通した計画を、学習形態や題材や課題の設定を工夫し、深い学びにつながるよう、探究的な学習場面の設定を行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	⑤に記した課題については、近年の様々なアンケートでも同じような結果が見られ、根強い課題だと考えられる。そのため、単元計画を工夫し、フィードバックの機会を増やし、内容を充実させることで生徒にとって必要感のある課題や社会とのつながりを感じ、自身の生活などと結びつけていき、主体的に学習に取り組む態度を養えるようにしていく。